

褥瘡の治療

～経過と観察の記録～

介護福祉士：山口 翔





はじめに

今回の発表はノンフィクションですが個人情報保護の観点から個人が特定されるような情報は変更させて頂いています

実践した治療と経過について
フォーカスした内容になっています





それでは今回の事例について
紹介させていただきます

80代 男性

パーキンソン症候群により
寝たきりになってしまった方
です

一般的なマットレスに
常時仰向けでお休みしていた
ため、
このような瘡蓋ができてしま
いました。

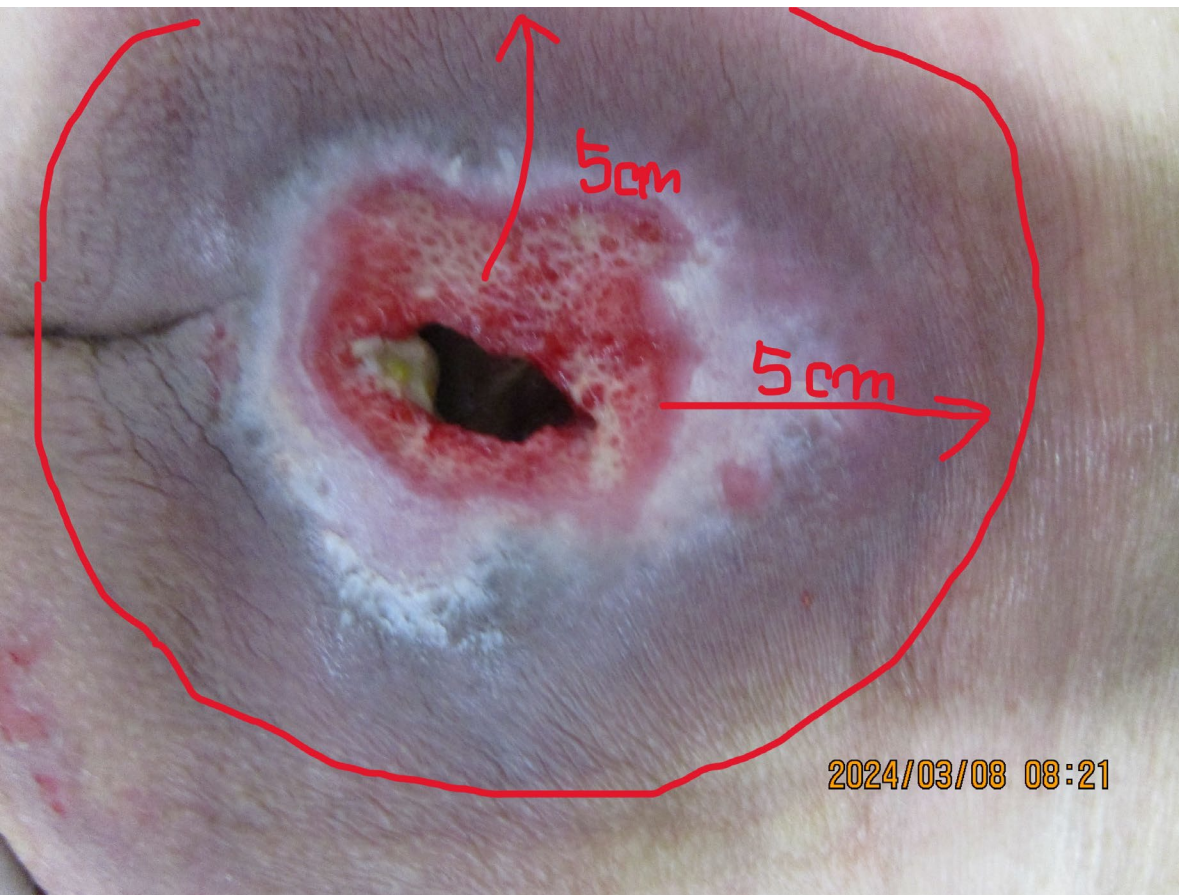
エアマットに変えました。





その後2週間ほどで瘡蓋が取れ
皮膚が見えていますが
真ん中に黒い所が見えていま
す





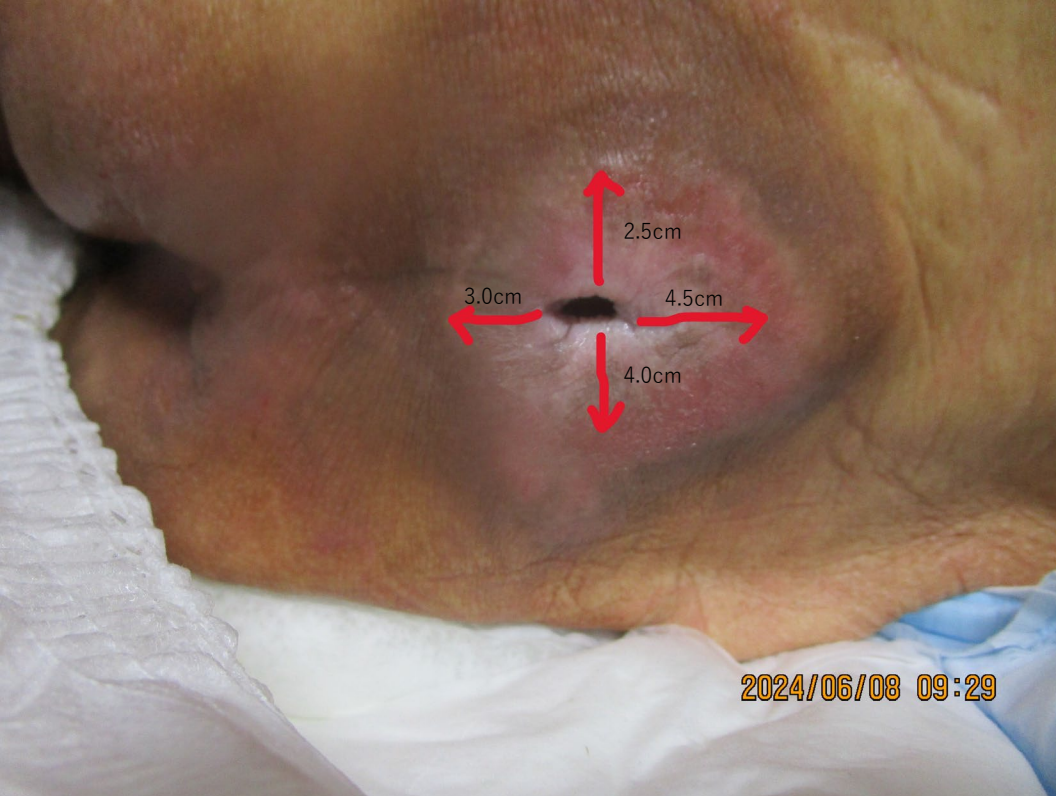
それから、半月ほど経ち
黒い所は穴が
空いています
ですがそれだけではなく、
内側には丸で囲われた所
まで空洞が広がっています。
空いている穴より
5 c m奥に広がっています





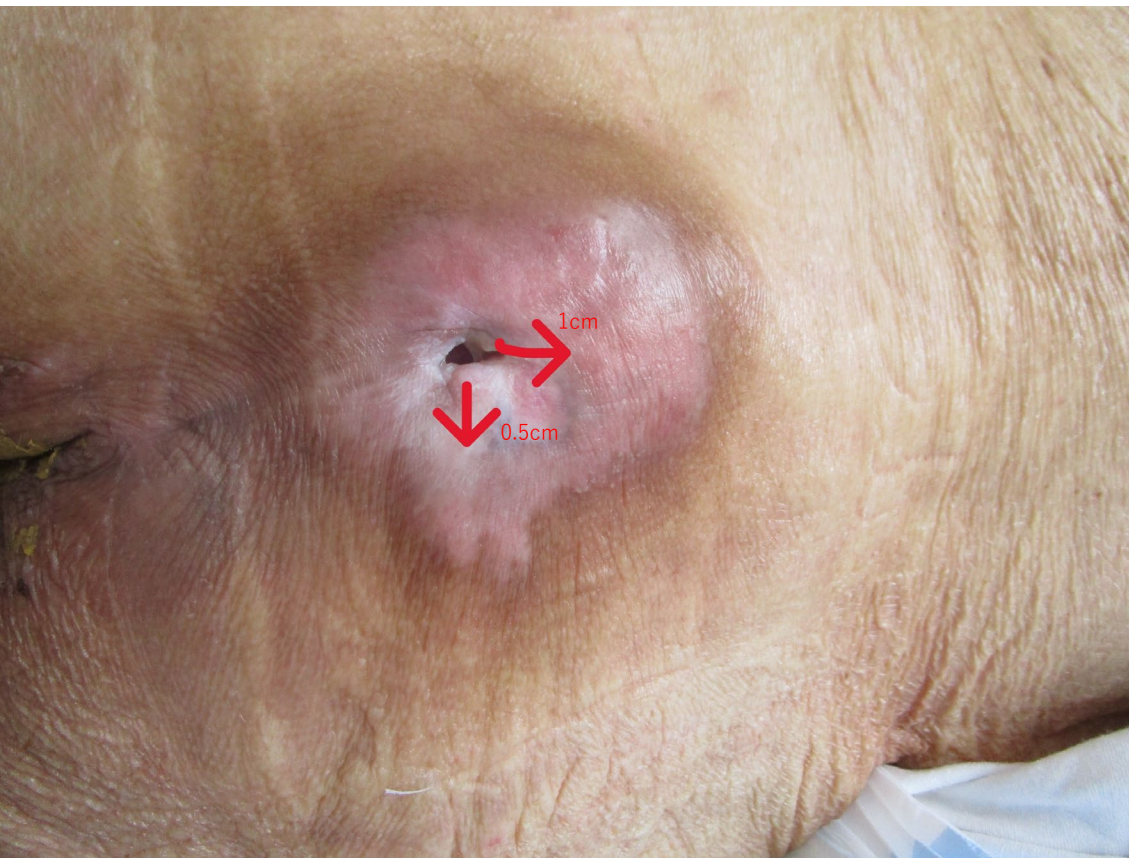
中の皮膚は壊死しているので毎回お湯で洗浄します。先に外側の皮膚が塞がってしまうので指を入れて一時的に広げます。その後、ガーゼに褥瘡用の軟膏を付け保護します。これを毎日行い様子を見ていきます。体位交換を3時間おきに行いお尻に負担がかからないようにします。





1ヶ月後です
少し内側が広がってしまいま
したが、食事で栄養を取り
体位交換を欠かさずに
行っていたので
外側皮膚の赤みが
治ってきています。





それから
2ヶ月ほど立ち
内側も塞がってきまし
た
あとは自然に
再生していきます。



終わりに

寝たきりの方はかなりの割合で褥瘡になりやすいです。
今回の事例は重症化の例ですが
体位交換とエアマットを活用し負担がかからないように注意して
います。

ですがそれ以前に必要なのは、日々の観察だと思います
ひどくなる前に発見できれば、処置も軽くなり
入居者様の負担も減ると思います。

ご清聴ありがとうございました。

